

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会報

第 9 4 号

H26 年 7 月 10 日

北海道有用高等学校交

TEL011-773-8200

「グローバル社会」到来期の高校において地歴・公民科はどのようにあるべきか

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長

(北海道有朋高等学校長)

村 田 尋 如

近年の社会の特徴は、いろいろな表現でなされていますが、最近、とみに言われることの多い「グローバル社会」という言葉には、ひときわとりとめなく、抽象的で、それでいて、なにやら大きな課題が背後にうごめいているような気がする、得体の知れない恐怖、言いようのない不安を感じます。

にもかかわらず、かまびすしいのは、「グローバル人材の育成」に関する議論です。平成24年に出された政府のグローバル人材育成推進会議の審議のまとめを見てみますと、グローバル人材の概念には、3つの要素があるとされています。

要素Ⅰ	語学力・コミュニケーション能力
要素Ⅱ	主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
要素Ⅲ	異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

今、進んでいる「グローバル社会」への道は、社会のあらゆる面での高度化、合理化、包括化を伴っているがゆえに、そこで生きていかなければならない若者たちに身に付けてほしい資質能力はあまたあり、その育成を急がなければならないという指摘が強くなってきているように思います。

一方で、日本の高校生の自己肯定感が世界の中で極端に低いという調査結果があります。校長の仕事への満足度も、教員（中学校）の教育に対する自信も、OECD諸国の中で、最も低いという調査結果が先頃報じられたことから見えてくるように、混沌とした、それでいて高度な社会を生き抜いていかなければならない若者たちに、精神の危機が訪れているのです。社会の高度化に呼応するかのようには精神が危機に瀕するのは、なんとしても避けなければなりません。

グローバル社会の進展とそこに生きる人々の精神にもっとも直結しているのは我が地歴・公民科の教育であると思うのですが、昨今では、地歴・公民科教育の将来を左右するような決定的な議論が進んでいるようです。新聞等の情報によると、日本史必修の議論が進んでいるとか、日本学会議では、世界史と日本史を統合した必修科目として「歴史基礎」を創設することを提言したとの報道もあります。これには、「地理基礎」もセットだという話もあります。公民科においては、「現代社会」の必修科目としての位置付けの再検討などという噂や、「倫理」、「政治・経済」の見直しや「倫政」という科目創設の噂も絶えません。

新学習指導要領が本格実施になったばかりなのに、早くも新たな枠組みの話が出るというのは、いかなものかとも思いますが、逆に、それだけ社会情勢の変化が早くて、見通しが難しいということ、さらにこれまでの期待される高校生像に、「グローバル人材育成」の観点やキャリア教育の観点などを織り込んだあらたな高校生像を模索しているということなどが相まって、次の学習指導要領の改定への動きが見えてきているようにも思います。

一言で言えば、はぐくむべき生徒像が混乱しているのだらうと思います。「生きる力」の育成という観点はありますが、世界標準の人間形成を急ぐあまり、混乱から混沌へ一気に進んでいるようにも思えます。

こんな時こそ、私たち地歴・公民科の教員は、確かな情報がないままの議論は好ましくはありませんので、適確に情報収集するとともに、地歴・公民科教育の科目設定の在り方にかかわらず、私たちが果たすべき役割や使命について考えることは、重要なことではないでしょうか。

この意味において、北海道高等学校教育研究会の果たす役割は、年を追うごとに重要になってきています。多くの地歴・公民科の教員の皆さまに研究会にご参加いただいて、今、私たちに求められているものは何かを議論し、理想的な地歴・公民科教育の実現を目指して努力していきましょう。